

吉川です。越後のやぶ山下田川内山塊、その最奥の矢筈岳を目指したが …

【山城】 下田川内山塊 【ルート】 木六山～銀太郎山～五剣谷山

【行動日】 5/2～3 【メンバー】 CL 柘植、木屋、齋藤健志、吉川(記)

【行程】 5/1(金) 土気 20:00－大宮 IC－京葉道－関越道－1:15 栄 PA (仮眠)

5/2(土) 栄 PA5:00－三条燕 IC－悪場峠 (駐車) 6:45－木六山 8:50－七郎平山水場 10:30－
銀次郎山 12:50－銀太郎山直下 15:20 (幕)

5/3(日) 幕場 5:30－銀太郎山 5:40－五剣谷山 7:30/8:10－銀太郎直下 9:40(撤収)10:30－
悪場峠 16:00(齋藤さん搜索)18:00－村松さくらんど温泉－三条燕 IC－関越道－帰葉

【内容】 5/2 (晴れ) 悪場峠に駐車し、少し下がった所に標識はないがしっかりした踏み跡を辿る。一登りで
仏峠の祠を通過し、カタクリの群生する水無平に下る。200m 程九十九折のトラバースを登り、間もなく雪溪
の斜面を登った後は夏道を辿って木六山山頂に立つ。



行く手の重なり合う山々をはっきり見分けられない程ピークが多く、目指す五剣谷岳は、はるか遠くに見える。
新緑のブナ林にタムシバが目立ってくるとコシアブラが手の届く場所にある。地図上では、長いアップダウン
の道だが今晚のつまみに頂く山菜取りで、距離感がなくなっていたが、朝から気温が高く、七郎平山の水場に
来た時は、皆、雪解け水を浴びるほど飲んで息を吹き返していた。暫くブナ林の残雪を踏みながらの登行に元
気が出る。稜線の西側の一直線の中山尾根の奥に粟ヶ岳を望み、東側は低山連峰でありながら豪雪地帯ゆえ雪
崩で磨かれたスラブは、深く V 字谷が食い込むすごい景観だ！



七郎平山を巻いた辺りから見た銀次郎山は、すぐ近くに見えたが、ニセピークにだまされアップダウンの繰り返

返して、ようやく銀次郎山山頂に立つ。山頂にはアルミの筒状の記帳入れが置かれていたので記帳した。丁度そのとき五剣谷山から戻ってきた地元の人3人パーティーにどちらから？と聞かれる。「千葉から」と答えると、「千葉の人はおかしな山が好き人が多いね」と笑う。ほかにも物好きな千葉の人がいるのかと思ひ、聞くと「昨年秋に近くの日本平山でも8人くらいの千葉の人にあった。翌日は弥彦山に行くと言ってたよ」とのこと。それもちば山パーティーだ！ということが分かり、再会を喜ぶリーダーの顔を見てしまう。広倉沢側の急峻な山肌を見せる銀太郎山の奥に五剣谷山が見えるがまだ遠い！イワウチワやブナの夏道を時々残雪が隠すルートを進み、銀太郎山の手前で、雪があり、テントを張るのにちょうどよい場所が見つかった。この先、登山道はなくなり幕場適地の五剣谷岳まで届かないという事で、この場所にテントを張った。水作りと共同のご飯を炊き、個々のおかず、山菜の3品を添え夕食を楽しむ。この間2組のパーティーは、我々の先に進んでいった。皆、ほろ酔いになりテントで横になる頃、外でコーヒータイム中に銀太郎山の上から、まんまるのお月様が現れ素晴らしい光景のご褒美に嬉しくなった。



5/3（晴れ）今日は体調のよくない齋藤さんはテン場で待つことになり、昼頃に戻る約束をして出発する。銀太郎山からの眺めは最高！五剣谷山が目前に迫り、青里岳や矢筈岳がその先に続いているが・・・この下りから、登山道はなく、藪漕ぎが始まった。大した藪ではないが、残雪をつないたり、藪に入ったり時々踏み跡らしき所を見つけたりと大汗をかきながら、五剣谷山の鞍部の雪上にでた。

五剣谷山山頂直下から左：銀太郎山 中央：銀次郎山



窪地を渡り最後の急斜面は、念のため軽アイゼンを装着して稜線に出る。山頂は、藪を東に進んだところがあった。読み取れない程割れた山名標を並べ写真を撮る。360度の素晴らしい展望は、白山、栗ヶ岳から青里岳、矢筈岳と、主たる河内山塊の山々が連立し、その奥に浅草岳や守門岳、御神楽岳を望み、振り返れば、銀太郎山、銀次郎山、遠くに今回行くはずだった白い飯豊連峰をも望めた。



中央↓矢筈岳 遠く会津の山々 ↓右：青里岳



目的の矢筈岳は無理だが中間の青里岳まで行こうと思うが、木屋さんがここで待つと言う。遠くなった青里岳から矢筈岳への稜線に目をやると単独者が、点のように小さく小さく見えた。リーダー判断で名残惜しい最奥の川内山塊を折り返し、銀太郎山を越え齋藤さんの待つ昨晩の幕営地でゆっくり休んで、少し軽くなったザックを担ぎ昨日の道をたどる。向きが変わると、景色もまた違って見える。稜線に咲き乱れるタムシバ越に早出川流域の平野を眺め、長いアップダウンの繰り返しの道のりを大汗をかいたり、涼しい風を感じ、ブナと椿の道や蕨の道を下り、ようやく最後の水無平に下る。この2日間で、テント4張り、行きかわすパーティー10組以上あった。日帰り、五剣谷山往復の健脚から、木六山や源次郎山往復組とGWで好天気だったからなのか？マイナー山域とは思えないほどに多くの登山者に会った。チャレンジランド杉川の道を分けトラバース道を進む。この時、ちょっと前後して前を歩いていたメンバーが、ルートミスをしてないか気がかりになったが、先に行ったリーダーが見えたので追いついて一緒に悪場峠へと下った。そしてクルマに着くと先に行っているはずの齋藤さんが居ないのに気付く。木屋さんに車のところで待ってもらい、リーダーとチャレンジランド杉川の分岐まで行ってみた。気を付ければわかるが、分岐の先の直進上の目線の高い木の枝に目立つテープが下がっていた。そのピンクテープに目をやると右のやや暗い道に入るのはわかりにくいと思った。会えぬまま車に戻り、車に書置きをして暗くなるまでに会えることを願い、チャレンジランド杉山へ3人で車道を歩き始めた。暫くすると、追いついてきた一台の車が我々に声をかけてくれ、事情が分かり、ようやく齋藤さんに会えた。チャレンジランド杉川ルートを下って、間違いに気づいてから元のルートに戻り無事下山したとの事、大事に至らず本当に良かった。最後の20分位の所であったが油断できない。このルートは、とても手強いルートだと思った。何かと計画が変更になったが、リーダー判断の勉強になりました。お世話様でした。